

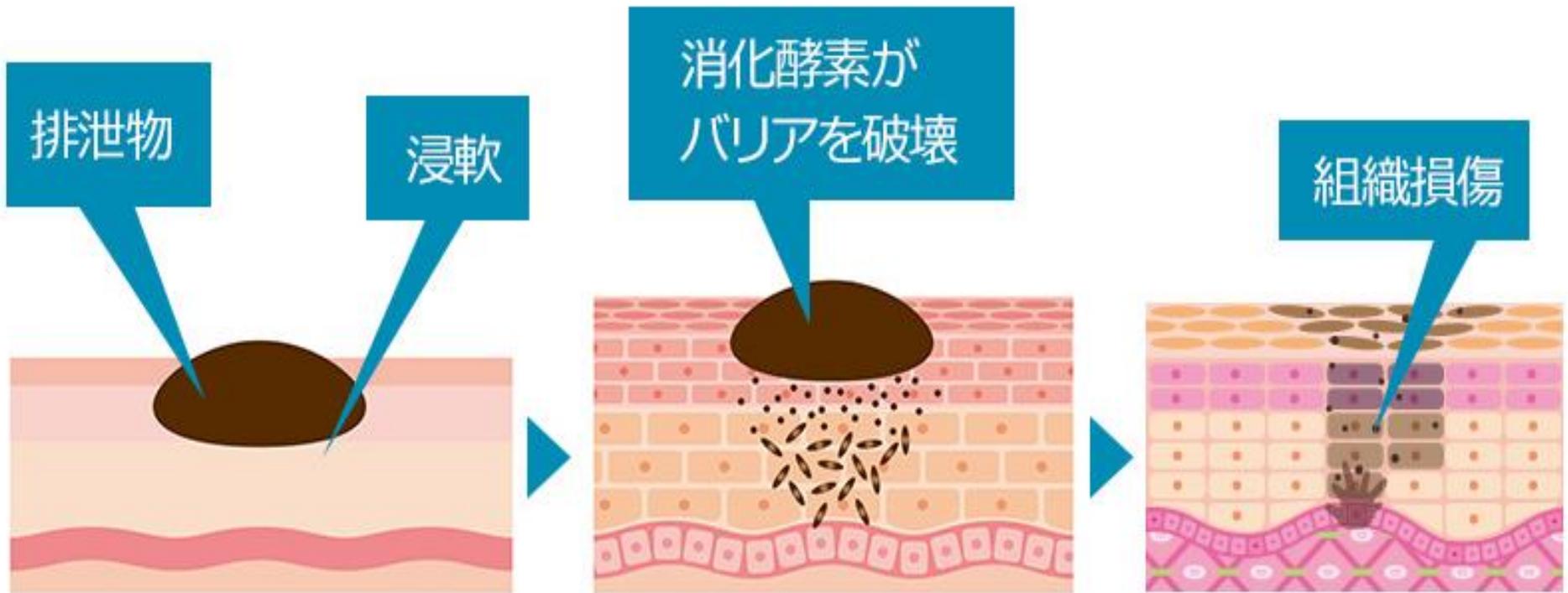
IADに対するケアを行って・・・

ショートステイゆきよし とやの
野口 美佐子

「IAD」って何？

IAD＝失禁関連皮膚炎

IAD発症メカニズム



当施設でのIADケア

- 洗淨・・・弱酸性の石鹼 1日1回
- 保湿・・・感染予防
- 保護・・・撥水

IADケアをするにあたり

介護、看護とが協力し、ケアを行う。

- ・臀部の状態、排泄物の性状を共有

適切迅速に判断できケアが開始。

- ・排便コントロールと皮膚処置の方法を
その場で判断、ケア開始

Aさん（70歳代 男性）

・病歴

脳梗塞、糖尿病、右変形性股関節症、アルツハイマー型認知症
構音障害

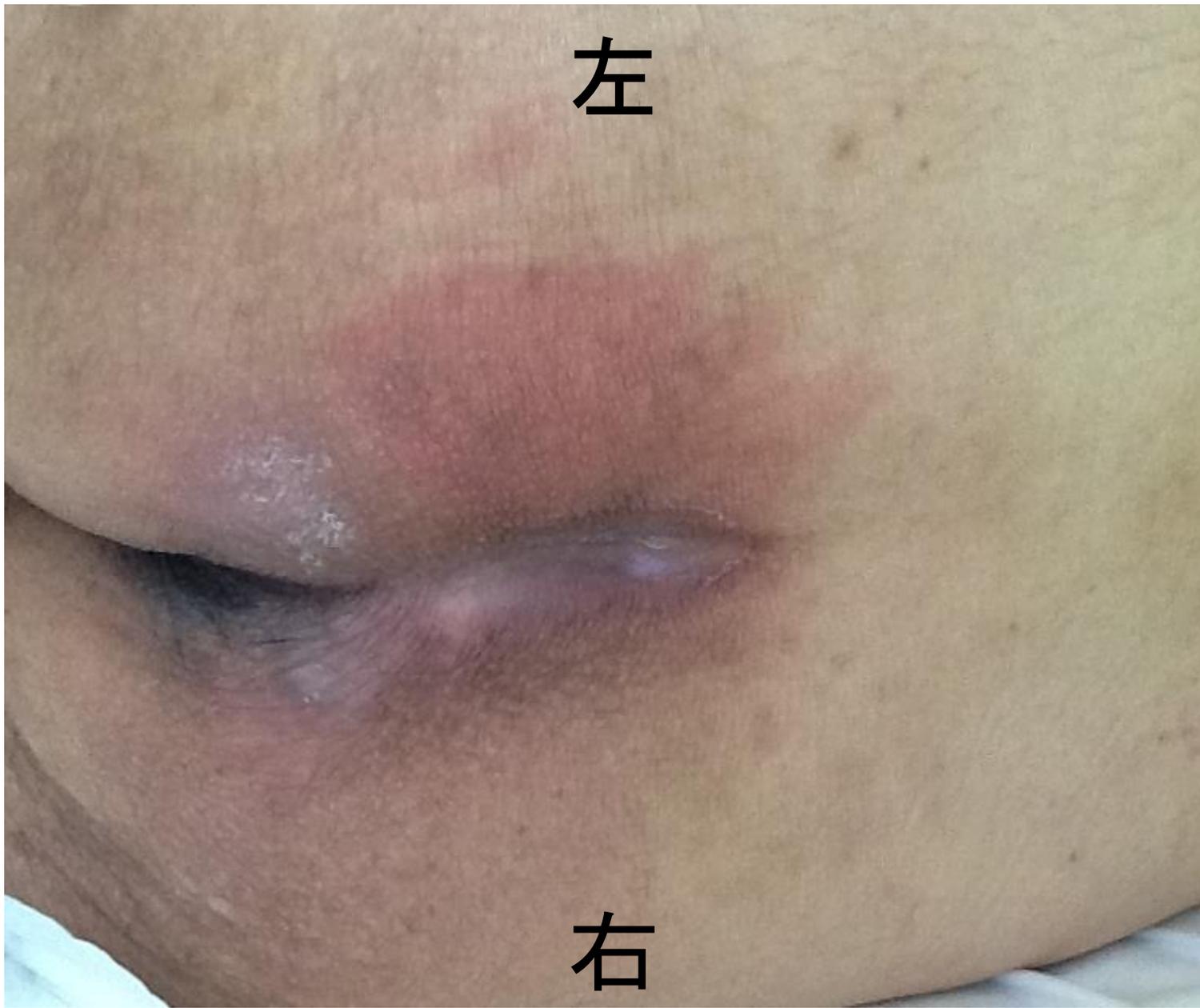
・入所時よりパット内の排泄が多く、下剤の調整をし排便コントロールをしていました。また、トイレでは清拭を行い清潔保持に努めていました。

しかし、ある日の昼食時、右に傾き机に突っ伏しているAさんがいました。声を掛けると

お尻が痛い

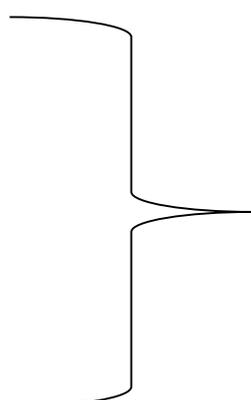


左



右

A様のIADケア

- 洗淨・・・弱酸性の石鹼 1日1回
 - 保湿・・・
 - 保護・・・
- ワセリン使用
- 

処置を始める前



処置を始めて2日目



6日目



- ・左臀部に新たな発赤
- ・発赤を押して離しても赤いまま
- ・もしかして、褥瘡？

6日目



保護フィルム
(看護の提案)



パットの選別
(介護の提案)

10日目



- ・赤み軽減
- ・「痛くないよ」のお話聞かれる
- ・姿勢よくなる
- ・ケア終了？

入院による悪化



臀部の様子



陰部の様子

ケアを続けた結果



・赤み減少

・きれいになった

①他職種と連携し
情報共有する事の重要性

IADケア

介護と看護で状態を一緒に確認



その場でケアの方針が決まる



迅速にケア開始

②職員の仕事に対する意識の変化

- 考えて業務に取り組むようになった。
- ご利用者様に対する気付きが増えた。
- やりがい、モチベーション向上。

③Aさんの変化

- 表情が明るくなり笑顔が増えた。
- 「痛い」訴えがなくなった。
- 姿勢も良くなり、食事も完食される。
- 生活にメリハリが生まれた。

ご清聴有難う御座いました

